



美しいものを育てる

～中野ばら園での5日間で学んだこと～

南区 南浦和中学校 教諭 風間 泰宏

1 はじめに

私は今回の研修にあたり、普段の学校現場ではできない経験や体験をし、そこから学んだことを吸収し、今後の教師人生に生かしていきたいと考える。今回の研修で得たものは多く、かけがえのないものとなった。

2 生産者の苦勞の先にあるものは…

私たちは、ブルーベリーの収穫、ビニールハウスの中の清掃、イチゴの苗の植え替え、お盆用の仏花の出荷準備を体験させていただいた。

中野ばら園では多くの農作物を育てている。そのうちのひとつがブルーベリーで、収穫したものを販売したり、一般のお客様がブルーベリー摘みを体験したりすることができる。

ブルーベリーの収穫は毎朝一番に行った。紫色に熟した物のみを摘む。中には手に触れなくても熟しているものは地面に落ちてしまうこともあるので注意が必要である。炎天下での作業は、とめどなく流れ続ける汗とともに2時間ほど続いた。

私たちが収穫したものがお客様の手にわたり、笑顔で帰られていく様子を目にすることがあった。このとき、生産者としての喜びを、ほんの少しだが感じる事ができた。

3 美しいバラを育てるために…

「うちのばらは水耕栽培で育てています。」とご主人の中野さんがおっしゃっていた。確かに、狭いスペースの中に多くの花を育てることができ、効率的であるのがよくわかった。

連日行ったビニールハウスでの作業の内容は、

①古いばらの蔓をビニールハウスから外へ運び出し、トラックへ積む。②水耕栽培に使った古い株を蔓と同様に運びだす。③ビニールハウス内の通路を清掃する。この作業によって、ハウス内での他の作業をしやすくすることができる。当然ながら、ばらのとげが刺さることがあった。蔓を運ぶ際に、咲いているばらの花を傷つけないように慎重に作業を行ったりもした。このような地道な作業を愛情をこめて行わなければ、美しい花を育て上げることができないのだとわかった。

4 あたたかい雰囲気を支えられた研修

5日間の研修は、非常に苦勞の多いものだった。汗を流しながら、土埃にまみれ、炎天下での作業を行った。しかし、毎朝ばら園に着くと、中野さんから「今日も先生方よろしくお願いたします。」とあたたかい声をかけていただいた。また、休憩時間での雑談の中で、心優しいお声掛けをいただき、その後の作業に向けてリフレッシュすることができた。たった5日間だけの私たちにも、働きやすい環境を提供してくださった。美しい花々、農作物を育てる背景には、このような中野さんの職場の雰囲気をよくするための心遣いがあったのだと気づかされた。

大きな成功の裏にはその何倍もの努力があることや、共に働く仲間を思う心の大切さ等、今回の研修で得た経験を今後の教師生活に生かしていきたい。

5日間、お忙しい中貴重な研修の場をご提供くださった中野さんをはじめ「中野ばら園」の皆様にご心より感謝申し上げます。